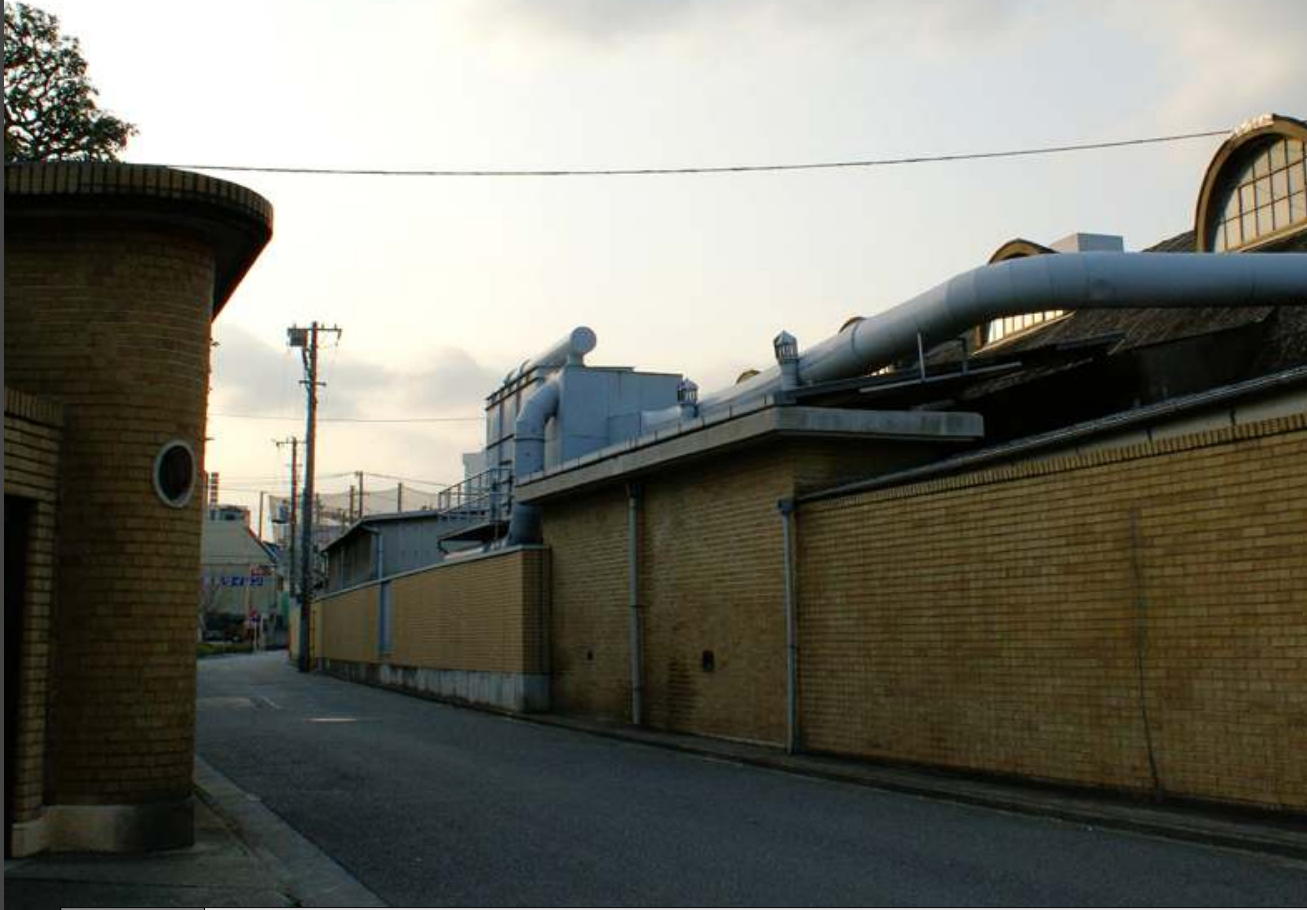


教科書図書館と 時空の桜。

2010.04.06 (Tue) 11:00-14:30



撮影企画

満開の桜越しの文化財建築群。道を隔てて教科書の「保存」と「生産」の場に同時に出会う。

コンセプト

© Ryoukitansa Design

プロローグ：都電の車窓から見え隠れする、錆色の工場屋根に脳が反応して降りた。万代塚の上に平行して延びるポルト屋根の横腹に、明り採りの窓は歩くたびに繰り返して現れて、道の先へと誘導する。やがて左右を淡褐色のスクラッチタイルの建物で挟まれた。「なんだろう。」来た道を振り返ると、もう薄闇の向こうにある。館銘板から、日本最初の教科書図書館「東書文庫」と印刷工場を隔てる道と知る。昔、図書館司書だった母が、終戦直後の女学校で拳で涙をぬぐいながら皆で教科書に墨を塗ったこと、校長先生が「泣くな！」と大声で一喝したことなどを話していた。時代の価値観を一変させる「墨塗教科書」とは一体どんなものなのか、急に見てみたくなった。春には桜が咲き誇り、児童・生徒達が新しい教科書を手にする季節。路傍に未だ蕾の桜、そういえば、サクラという字は入学してすぐに習う。今立っている道を挟んで片や図書館という「保存」の場、片や印刷工場という「生産」の場、この2つが同じく戦火を逃れ、74年の時を経て同時に存在する。東書文庫は都・北区有形文化財であり、近代化産業遺産にも認定、蔵書7万6千点が国の重要文化財に指定される貴重な施設。そこで今回は桜満開の時期に行う取材を通して、桜咲く建物の魅力と戦争の痕跡に迫り、教育と教科書について少しでも皆様にお知らせできればと思う。(企画者/新藤)

物件データ

①東書文庫 (都・北区有形文化財/近代化産業遺産)

②工場+社屋 (都・北区有形文化財)

[共通事項]

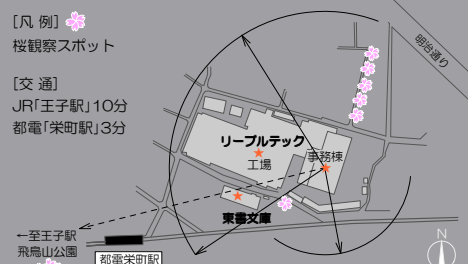
竣工：1936年(昭和11)
設計：山本喜一・西谷健吉
施工：巴製作所
様式：アール・デコ 外装スクラッチタイル貼
①[東書文庫]—運営：東京書籍(株)
所在地：東京都北区栄町48-32
規模：延床734㎡ 1979年増築、延床1359㎡
構造：RC造2階建
用途：図書館

②[工場+事務棟] 現：(株)リープテック社屋
所在地：東京都堀船1-23-31
□工場
規模：6,200㎡
構造：RC造平建 ダイヤモンドトラス
用途：印刷工場
□事務棟
規模：1,300㎡
構造：RC造2階建(竣工時)、1979年3階増築
用途：社屋・警備室

[凡例]

桜観察スポット

[交通]
JR「王子駅」10分
都電「栄町駅」3分



ロケーション

領域探査
デザイン

中古スケルトン賃貸普及プロジェクト



企画/領域探査デザイン www.ryookitansa.com
目黒区目黒2-11-14 大鳥ビル53号
tel/fax 03-6662-5350
shindo@ryookitansa.com

2010.04.06